

# 施策評価シート

評価年度	平成25年度	事業実施年度	平成24年度	施策主管次長名	教育部次長 近藤 政彦
施策番号	69	施策名	豊かな心と個性が輝くまち		総合計画掲載頁
関係課名	学校教育課、教育行政課、スポーツ課				

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	・市内小中学校児童生徒 ・保護者	対象指標名		単位	H23実績	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込	
			①	児童生徒数	人	6822	6822	6818	6753	6690	6589	
			②	人口	人	58762	59141	61400	62500	63700	64700	
			③									
意図	子どもたちが元気で安心して生活ができ、進んで学習できるまちにする					成果指標名	①	教育相談件数(教育支援センター含む)				
						成果指標名	②	学校が楽しいと答えた児童生徒の割合				
						成果指標名	③	体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)				
						成果指標名	④	体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)				

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	教育相談件数(教育支援センター含む)	件	2292	2500	1990	2000	1980	1960	1930
①	指標設定の考え方と把握方法 人間関係等の悩みやストレスの量表す数値を教育相談の件数とし、学校教育課で把握する								
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
②	学校が楽しいと答えた児童生徒の割合	%	小90.1	小92.0	小90.1	小93.0	小95.0	小95.0	小95.0
			中88.9	中90.0	中86.0	中92.0	中95.0	中95.0	中95.0
	指標設定の考え方と把握方法 学校が楽しいと感じることが、学習意欲と相関関係にある。児童生徒へのアンケートで把握する								
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
③	体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)	%	男87.5	男75	男75.0	男75	男75	男75	男75
			女62.5	女70	女87.5	女75	女75	女75	女75
	指標設定の考え方と把握方法 学校を楽しめる児童の基礎体力を「体力テスト」で把握する。								
指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
④	体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)	%	男62.5	男75	男33.3	男50	男60	男75	男75
			女12.5	女50	女33.3	女50	女60	女75	女75
	指標設定の考え方と把握方法 学校を楽しめる生徒の基礎体力を「体力テスト」で把握する。								

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	学校教育への関心と理解を深め、学校・家庭・地域との連携で子どもたちの健全な育成を図る役割を担う。			
	行政	子どもが心身ともに健全で、通いたい学校、保護者が安心して通わせたい学校づくりをする。			
達成度評価	近隣との比較	豊田市は青少年相談センター(パルクとよた)を設置し、月曜日から土曜日にかけて臨床心理士などを常駐させ、保護者からの相談を受け付けている。刈谷市や知立市では学校で相談業務を行っている。本市では学習交流センター内に教育支援センターを設置し、多様な相談に対応している。			
	過去3年間の実績との比較	◆相談件数は、平成22年度3,143件、平成23年度2,292件、平成24年度1,990件と減少傾向にある。 ◆学校が楽しいと答えた割合は、小学校は90%台で推移している。中学校は平成21年度、平成22年度は、90%台であったが、平成23年度、平成24年度は、若干下回った。体力テストは、小学校男子はほぼ同じ状況であるが、小学校女子が大きく上回った。しかし、中学生は、男女とも大きく下回った。			
現状と課題	◆相談件数は年々減少傾向である。ただし不登校児童生徒の数は増加傾向にあることから、一概に良い傾向と判断できない。 ◆学校が楽しいと答えた児童は90%台を推移するも年々減少傾向である。学校が楽しいと感じる児童生徒が多くなるには、児童生徒が悩みを解決できること、授業がさらに楽しく分かりやすくなる必要がある。 ◆体力テストについては、小学生は県平均を上回ったが、中学生は男女とも県平均を下回った。児童生徒が健康な生活を送るには、体と心の健康を促進する必要がある。				
今後の取り組みの方向性および次年度の取り組み	◆児童生徒が、元気に生活するために、悩みを相談しやすい環境を整える。 ◆分かる授業、楽しい授業とするために、授業を複数の指導者で行うことにより一人一人の児童生徒へきめの細かい指導や、集中を高めることのできる個別支援をさらに充実する。 ◆児童生徒の心身の健康を増進するために、運動に親しむことを奨励したり、野外学習や自然教室などの体験活動を充実させる。また、心を豊かにする読書により親しむようにさせる。				
	(26年度の取り組み) 児童生徒一人一人に対するきめの細かい指導及び支援の充実を目指して、小中学校少人数指導等対応非常勤講師配置事業、特別支援教育対応教員補助者派遣事業、子どもの相談員派遣事業、心の相談員派遣事業を積極的に推進する。				
市民意識	重要度	高い	満足度	高い	平成24年度市民アンケート調査による